

分かりやすい行動経済学入門 勇気をくれる名言と仕事の極意

2

017年のノーベル経済学賞が、行動経済学のリチャード・セイラー教授に授与されて以来、お客さまからの問い合わせが増えました。セイラー教授の原著翻訳もありますが、グッドタイミングで刊行された行動経済学の入門書が「ヘンテコミクス」です。

雑誌「ブルータス」の連載をまとめたもので、23の行動経済学のエッセンスを漫画仕立てで紹介しています。著者の一人がテレビ番

組「ピタゴラススイッチ」監修の佐藤雅彦さんであることから分かるように、とても平易に解説されています。個人的には、「従来製品の90%の油分を使用」と「従来製品が売れるかを問うフレミニング効果や、ランチメニューを二つでなく三つにすれば従来の高額品の方がよく売れるという極端回避性など、参考になります。

ベテラン記者の取材ノートから抽出された珠玉の言葉集が、「日

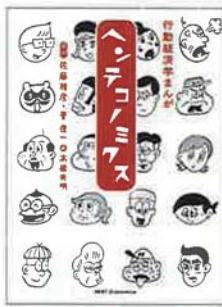
選・評
真田 泉
八重洲ブックセンター八重洲本店
販売課主任

本電産 永守重信が社員に言い続けた仕事の勝ち方」。20年にわたる取材で聞いた名言と背景をつづり、全編が仕事の勝ち方についてのストーリーになっています。永守さんは多くの不振企業を買収しよみがえらせてきました。その根底には「赤字は罪悪であり、経営者の怠慢。本来の潜在力を出せば利益は必ず出る」という思いがあり、「君たちには力がある。必ず

復活できる」とエールを送り続けます。負け慣れ社員を自覚めさせる言葉に勇気をもらえます。

『小さな会社は経営計画で人を育てなさい!』は、ヒット作を連発している人事コンサルタントの最新作。スタートアップ企業や中小企業にこそビジョン実現型の経営計画が必要であり、それを社員と共有する重要さを訴えます。その上で、「研修などは幹部クラスからこそ始めるべきだ」と説きます。なぜならば、経営についての深い理解こそが経営の本質的な強化の始まりだからです。私が通っている美容室がケーススタディーに登場してびっくりでした。

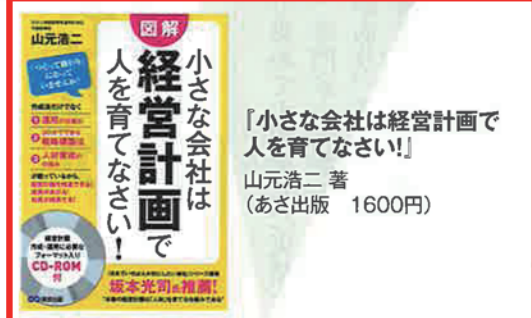
(談)



『行動経済学まんが
ヘンテコミクス』
佐藤雅彦ほか 著
(マガジンハウス 1500円)



『日本電産 永守重信が
社員に言い続けた
仕事の勝ち方』
田村賢司 著
(日経BP社 1500円)



『小さな会社は経営計画で
人を育てなさい!』
山元浩二 著
(あざ出版 1600円)

話題の新刊から定番まで ビジネス書ベストセラー

1. 大人の語彙力ノート
齋藤 孝 著(SBクリエイティブ 1300円)
2. SHOE DOG 靴にすべてを。
フィル・ナイト 著(東洋経済新報社 1800円)
3. スタンフォード式 最高の睡眠
西野精治 著(サンマーク出版 1500円)
4. 残酷すぎる成功法則
エリック・バーカー 著(飛鳥新社 1500円)
5. 会社四季報 業界地図 2017年版
東洋経済新報社 編(東洋経済新報社 1200円)
6. はじめての人のための3000円投資生活
横山光昭 著(アスコム 1100円)
7. 大人の語彙力が使える順できちんと身につく本
吉田裕子 著(かんき出版 1300円)
8. 「すぐやる人」と「やれない人」の習慣
塚本 亮 著(明日香出版社 1400円)
9. さりげなく人を動かす スゴイ! 話し方
山崎拓巳 著(かんき出版 1400円)
10. お金持ちが肝に銘じているちょっとした習慣
菅原 圭 著(河出書房新社 780円)

*日版オープンネットワークウィン調べ(単行本ビジネス(産業を除く) 11月27日~12月3日)